

京都大学の ゲートウェイサービス利用事例

京都大学 学術情報メディアセンター

古村 隆明

KYOTO UNIVERSITY

京都大学



学認クラウドゲートウェイの二つの役割

1. ポータル

- 利用できるサービスだけが並ぶポータルページ

2. グループ管理

- 所属しているグループによって、ポータルに並ぶサービスが変化
- 認可のための情報源

グループとは？

- ユーザの集合
- 「認可」に使う情報

例) グループ A	→	グループ A 用の共有ファイルにアクセス可能
グループ B	→	システム B を利用可能
グループ B'	→	システム B を管理者権限で利用可能
⋮		⋮

同じグループに所属しているユーザに同じ権限を与える

グループ情報管理の現状

- 認可の判断基準となるグループ情報をシステムごとに独立して管理
- 複数システムで同じグループ情報を参照したい場合、グループ情報をバッチ処理などでコピー
 - ファイルへのアクセス権
 - メーリングリストのメンバー
 - 掲示板への書き込み権限
 - チャットのチャンネルへのアクセス権
- 認証は組織内の認証基盤や「学認フェデレーション」で統合が進んでいる
- 認可は十分に統合できていない
 - グループ情報も統合して管理したい

CG活用事例

複数システムでグループ情報を共有

- グループ情報を応用して「代理入力者」の情報を管理

代理入力の例: 教員の代理として秘書が情報登録

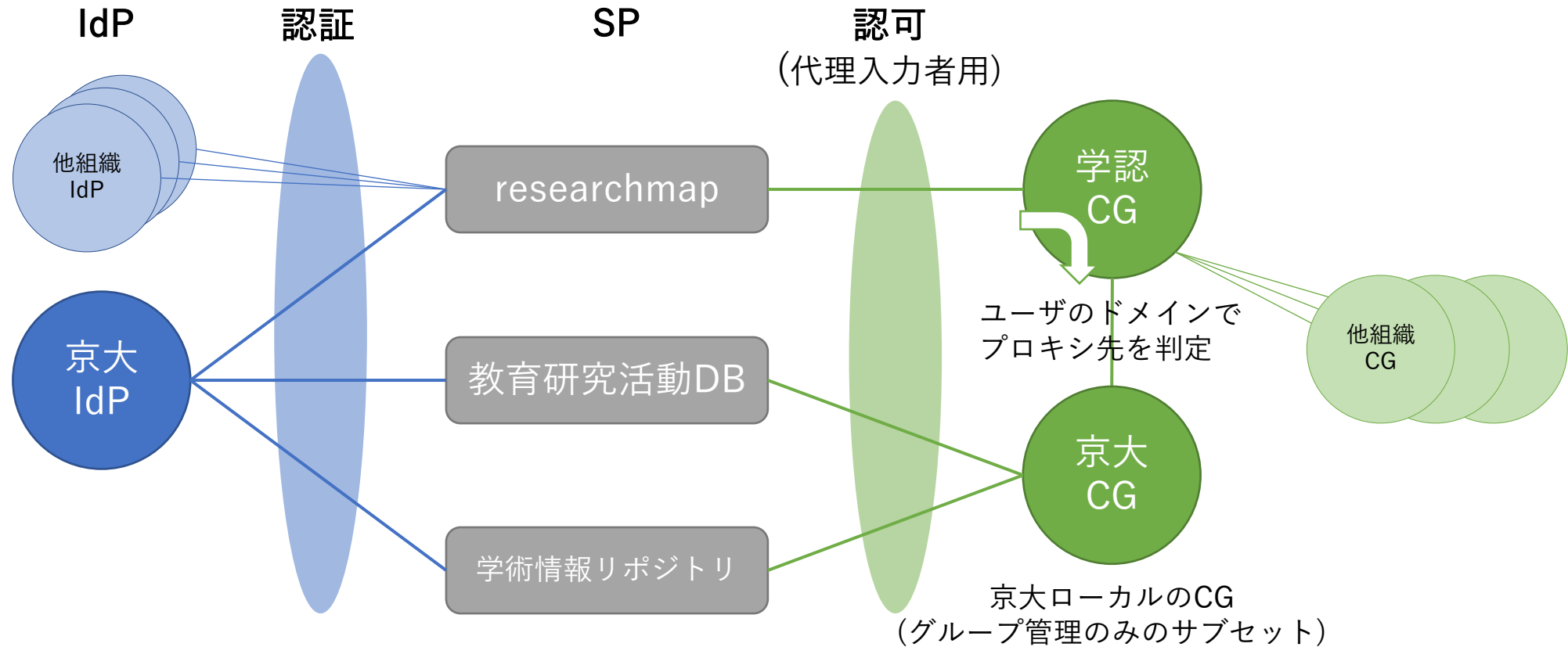
教員Aが秘書Bを代理入力者とする場合、グループAのメンバにユーザBを登録

- 3つシステムで「代理入力者情報」を共有

- researchmap.V1
- 京都大学教育研究活動データベース
- 京都大学学術情報リポジトリ

GakuNin mAP で2014年から

グループ情報共有のシステム構成



全国向けのシステムと、学内ローカルシステムで「京大CG」に登録されている代理入力者情報を活用

大学ローカルCGを立てた理由

- 全国向けのシステム(researchmap)だけでなく、
学内ローカルシステムからもグループ情報を参照したい
- 学内ローカルのグループ情報はローカルで管理したい
 - 人事情報などに基づくグループも管理したい

問題点 (反省点)

- 導入の敷居が高い
 - 組織ローカルCG(サブセット)のセットアップが煩雑
- グループ情報の活用先が少ない
 - 代理入力のためだけにセットアップするのはコストパフォーマンス低い
- 導入する組織が増えない

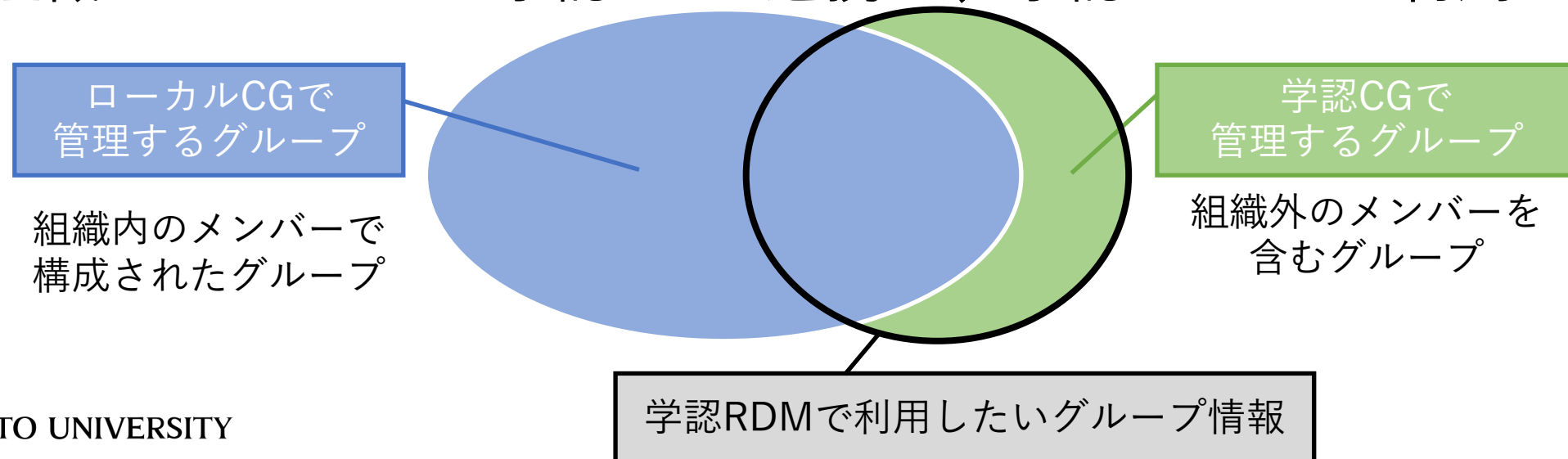
→ 負のループ

- researchmap.V2 ではこの方法での代理入力機能は廃止 🥲
- 教育研究活動DBと学術情報リポジトリとの連携は継続

学認CG活用案 1

学認RDMとローカルCG連携

- 学認RDM利用のためにグループ管理は必須
- 学内システムでもグループ管理は必須
 - 代理入力者だけでなく、多数のグループ管理の必要性の高まり
- 組織ローカルCGを学認CGと連携し、学認RDMでも利用



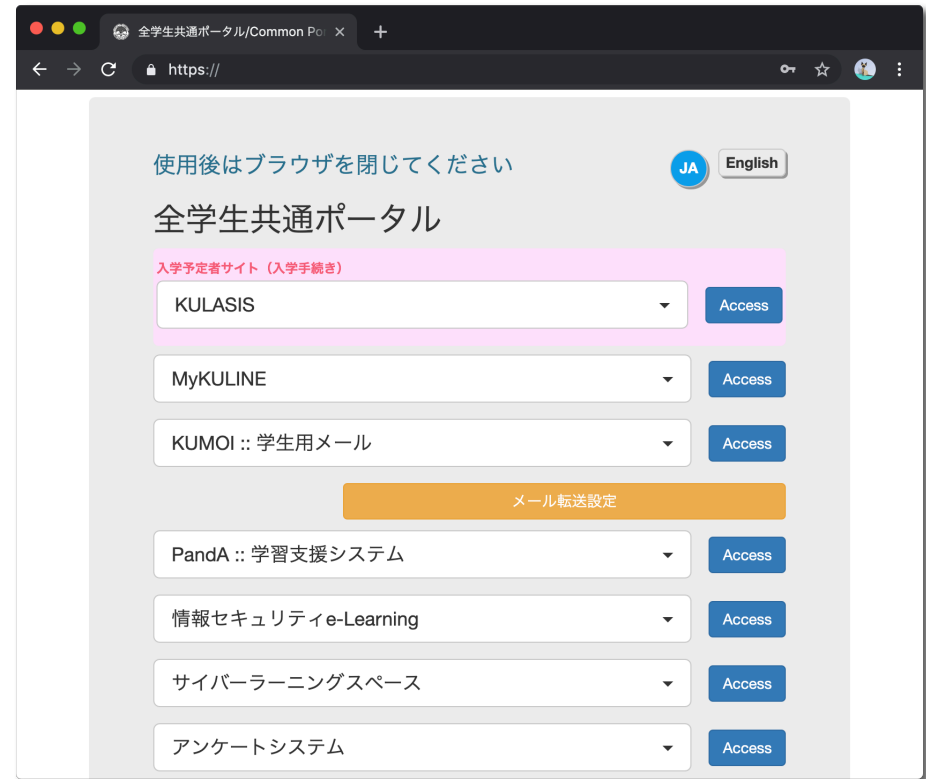
要望

- 多数の組織で導入できるように
 - 既存のグループ管理の仕組みとの連携を容易にする仕組み
 - 既存のサービスでの活用方法を発信
 - 学認CGと組織ローカルCGの連携の仕様を積極的に公開
 - ローカルCGのセットアップを簡単に

学認CG活用案 2 学生用ポータルとして

学生用ポータルページの置き換え

- 認証後に静的なHTMLを表示
- JavaScript で個人向けお知らせをオーバーレイ表示
- 学認クラウドゲートウェイにも個人向けお知らせ機能が欲しい



まとめ

- 活用事例
 - 学認CGを応用して、reserchmap、研究活動DB、学術情報リポジトリの3システムでの「代理入力者」情報の共有
- 活用案
 - 組織内ローカルCGと学認CGと連携させ、グループ情報を学内外の様々なシステムから活用できる基盤を構築
 - 学認RDMを活用するためも欲しい
 - 多くの組織で導入できるよう工夫が必要
 - 学生用ポータルとして
 - 個人向け通知機能が欲しい